



### 三 条 税 務 署 長 賞

## 『これからの税』

三 条 市 立 大 崎 学 園

九 年

川 上

仁 子

かわかみ

にこ

「税」と聞いて私が最初に思い浮かぶのは、消費税だ。2019年、当時小学4年生だった私に母が言った言葉は今でも覚えている。「消費税が8%から10%になったんだよ。だから100円均一のお店で商品を一個買うとしたら、110円払うんだよ。」その当時の私は、消費税というのはただ、「国に納めるもの」というふうに解釈していた。だからそれが何に使われているのかわかっていなかった。

その数年後、世界の救急車を取り上げてるTV番組を見ていた時に、救急車が有料で更に一回の利用で高い費用がかかってしまう国があることを知った。その時にふと、「なぜ日本の救急車は無料なのだろう」という疑問が頭をよぎった。その疑問を父に聞いてみると、「日本は、国民が納める税金を社会福祉に使っているから無料なんだよ。」という答えが返ってきた。それを聞いて私は、税金は国や国民の生活を支えているんだと言うことが初めて分かった。日本が税金を自分の身近な場所で使っているとい

うことを知って、税金に興味を持つようになった。例えば、新学期に教科書が配られる際、先生に「国民の税金によって無償で配られるものなので、大切に使いましょう。」と言われたことがある。ここでも身近で税金が使われているということを知った。そのため税金に対してプラスなイメージを持っていた。

しかし、日本には消費税の他にも代表的なもので、法人税や所得税、相続税など、すべて合わせると100種類にもものぼる数の税金がある。100種類全てを納めるわけではないが、たくさんの税金を納めるのは大変で嫌だという考えを持つ人も世の中には少なくはないと思う。そして、現在日本は「少子高齢化」という問題に直面している。子供の人口が少なくなり、高齢者の人口が増えると、社会福祉に役立てるための税金を更に納めなくてはいけないことになるだろう。私もそんなことを考えると、今までの考えとは違い、大きい負担をするのは嫌だなと思うことがある。だからといって、税金をなくすという単純な考えに至ってはいけないと私は思う。なぜなら、私達のこの豊かな生活は税金で支えられているからだ。税金がない暮らしは一体どうなるのだろうか。いざというときに警察、消防、救急車も高いお金が発生するし、街はゴミで溢れる。道路の整備にも高いお金がかかる。今の生活からは全く想像もできないことだが、税金がないと、そのような世の中になってしまう。

みんなが不満なく税金を納めるためには、少子高齢化をはじめとする日本が抱えている問題に、私達若い世代がしっかり向き合っていく必要があると思う。向き合おうとしないのに文句を言っただけはいけないと思う。みんなで明るい未来のために、考え行動しよう。

